

# 1. 調査報告概要表

作成日 平成20年 4月15日

## 【評価実施概要】

事業所番号	3290400112
法人名	社会福祉法人 多伎の郷
事業所名	グループホーム はなんばの里
所在地 (電話番号)	出雲市多伎町口田儀750 (電 話) 0853-86-7700

評価機関名	財団法人 出雲市ひらた福祉公社
所在地	島根県出雲市平田町2112-1 平田福祉館2階
訪問調査日	平成19年12月20日

## 【情報提供票より】(19年12月10日事業所記入)

### (1)組織概要

開設年月日	平成 19 年 4 月 16 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤 15人, 非常勤 0 人, 常勤換算	14.6 人

### (2)建物概要

建物形態	併設 <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/> 新築 <input type="radio"/> 改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建て	1 階 ~ 1 階部分

### (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	49,500 円	その他の経費(月額)	9,600 円	
敷 金	有( 円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円) <input type="radio"/> 無 <input checked="" type="radio"/>	有りの場合 償却の有無	<input checked="" type="radio"/> 有 <input type="radio"/> 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,380 円	

### (4)利用者の概要(12月10日現在)

利用者人数	18 名	男性	7 名	女性	11 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	5 名	要介護4	3 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低	80 歳	最高	95 歳

### (5)協力医療機関

協力医療機関名	島根県立中央病院、島根県立湖陵病院、おおの歯科医院
---------	---------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関先からは、四季折々の表情を見せる日本海や山などを望め、主要国道から一步入った、静かな環境に立地するこのホームは、昨年4月に開設されている。同一法人で特別養護老人ホームをはじめ、複数事業所を運営しており、これらと連携を図りながらの支援がなされている。  
 地元の行事の際には、花神輿がホームを訪れ、利用者とともに祭りを盛り上げたり、住民やボランティアの来訪も多いなど、地域との連携が図られている。また、地域の意見を運営に活かし、より密な関係を築こうとする取り組みもなされている。  
 利用者個々の意向や家族の希望などの把握が行われ、それを基とした、それぞれへの対応がされているものの、利用者としてでなく、お客様として対応している場面が一部見られており、今後の取り組みに期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 運営者、管理者、職員ともに自己評価の意義を理解しており、今回の調査にあたっては全職員で自己評価し、話し合いを行った。自己評価、外部評価ともに日々の支援方法を見直すきっかけとして捉え、取り組まれている。
重点項目 ②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 行政関係、地域住民代表、入居者家族、法人職員等をメンバーとし、定期的に開催している。今後の運営方法等、より地域に根ざし、また質の向上を目指した討議を行っており、ホームとしても、これらの意見を真摯に受け止め、ホームの意義、存在感という点を含め、地域密着に向けた活動を展開、反映させようと取り組んでいる。
重点項目 ③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 家族等の来訪時には必ず声かけを行い、意見を聞きだすよう取り組んでいる。また、家族等にも参加していただけるホーム行事を開催し、遠慮なく意見や苦情を言ってもらえる雰囲気作りにも心掛けている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 地域との交流を重要視しており、文化祭や行事に参加している。また、地域住民が苑庭を散歩したり、ボランティアの来訪等、日々地域住民と関わりをもち、連携を密にするよう図られている。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の基本理念を基とし、「地域と家族との交流を大切にし・・・」というホーム独自の理念をつくりあげ、地域との交流を積極的に行うなど、理念に沿った事業展開を行っている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月行う職員ミーティングをはじめ、職員会議等で話すなど、共有に向けた取り組みが行われている。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の文化祭や伝統行事、地域のボランティア団体等との交流など、ホームとしても地域との付き合いを重要視しており、積極的に行っている。		
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者、職員ともに、評価の意義を十分理解し、これを基とし、更なるホームの質の向上を目指し、取り組んでいる姿勢が窺えた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族や民生委員、行政関係者等をメンバーとし、2ヶ月に1回定期的に行っている。会議では、ホームの運営状況をはじめ、職員の質に対する意見を聴取するなど、この会議を活かした取り組みが行われている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市役所担当者へ度々訪問し、協議するなど、密に連携をとり、サービスの質の向上を目指し取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者それぞれの生活状況が分かるよう工夫した、担当職員による定期的なホーム便りの発行をはじめ、電話連絡や家族の来訪時など、個々の状況に合わせた報告が行われている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	電話連絡や家族来訪の際に時間を設け、意見を聴取する取り組みがなされている。また、家族懇談会を開催し、より多くの意見を聴取しようとするなど、積極的に取り組んでいる。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者、管理者ともに、グループホームの特性を理解しており、開設以降異動は行われていない。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な法人内研修への参加をはじめ、職場内研修も行っている。また、外部研修へも積極的に参加し、職員個々のスキルアップに向け取り組んでいる。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	出雲市の連絡会に加入しており、研修等への参加を通して、サービスの質の向上を目指している。また、他事業所へ見学を行うなど、より質の向上を目指した取り組みがなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	家庭訪問や、ホームの見学、同法人のショートステイ利用後の入所など、徐々に馴染みながらサービスを利用できるよう配慮されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者と共に、協力を得ながら過ごすという家族の一員として支援している面と、本人の能力があるにも関わらず、それを職員側が行ってしまっているなど、利用者をお客様として支援している面が一部見られた。	○	開所して1年も満たないことから、職員もグループホームというものに慣れていないという面はあろうかと思うが、利用者の能力維持、生活支援という面からも、過剰介護にならないよう、今一度認識し、対応されることを期待する。
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で、本人の希望や意向を聞きだすよう努めているものの、開所して1年も満たないこともあるせいか、職員としての懸念も分かるが、支援が過剰に思われるなど、利用者の残存能力が活かされないような場面が見られた。	○	お客様としてではなく、共に過ごす家族として、利用者それぞれの残存能力や意向の把握を行い、それを活かした支援がなされることを期待する。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族等の要望を聞き、担当者会議、カンファレンス、モニタリング等を行い、それを職員間で共有し介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の期間に応じた見直しはもちろん、利用者の状態に変化があった場合には、その都度見直しを行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人、家族等の状況に応じて、通院や送迎等必要な支援は柔軟に対応している。また、特養をはじめとする同法人内の施設と連携も図るなど、多機能性を活かした支援がなされている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族等の希望するかかりつけ医を基本とし、受診支援を行っている。また、体調変化時には往診依頼をし、適切な医療を受けられるよう取り組まれている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「看取り指針」も作成され、職員体制も整えるなど、終末期の対応ができるよう取り組んでいる。また、職員間でも方針の共有がなされており、体制が整えられている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ミーティング時に利用者の誇りや尊厳について話し合い、職員の意識向上を図っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合にならないよう、利用者一人ひとりのペースにあわせ支援するよう心がけ、買い物や散歩などは利用者のその日、その時の気持ちを配慮しながら支援を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	配膳等の準備、後片付けは利用者とともに行われているものの、食事は外注となっており、ホーム内での調理は、米飯と汁物のみとなっている。食事の際は、職員も同じテーブルにつき食事をとっているが、一部、利用者をお客様として対応している面が見られた。	○	ホームの事情や今までの経過から、全食事を調理することは難しいと思われるので、例えば、昼食はホームで調理することから始めてみるなど、利用者の役割を見出すという点、能力維持という点からも、ホームでの調理について再考されることを期待する。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日入浴や、1日おきなどそれぞれの希望に合わせて実施されている。時間帯についても、本人の希望で入浴できる体制が整っている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、利用者が経験や知恵を發揮できるよう役割を見出している。また、外出等楽しみごとや気晴らしについても、利用者の希望に沿い支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出希望者に対してはそれに合わせ対応している。また、単独でホーム近辺を散歩する利用者もいるなど、利用者の意思を尊重し支援している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム玄関は日中は施錠されることはなく、夜間は防犯上の理由により施錠されている。ただ、玄関の出入りについて、ホームに入ることは自由にできるが、ホームから外へ出る際は、ボタンを押さないと出れないシステムになっており、入居者が自由に出入りできるとは言えない。	○	その人らしい暮らしという点からも、利用者が自由に出入りできるよう改善されるとともに、地域への協力依頼など、安全面の配慮等の再考も含めホームとして取り組むことが望まれる。
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を得、消防訓練を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援</b>					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は個々にチェックし把握している。また、利用者それぞれの咀嚼能力に合わせて、刻み食やお粥を提供するなど対応している。		
<b>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</b>					
<b>(1) 居心地のよい環境づくり</b>					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の淀みもなく、テレビの音や日光など、利用者には不快感を与えないよう調節している。また、共有空間にある和室には使い込まれた品が置かれ生活感のある空間作りがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前に使っていた家具や、日用品の持ち込みも多く、それぞれに合った居室作りがなされている。		